

第 110 回東葛しぜん観察会

オオハクチョウと春を待つ樹木

木村将夫（流山市）

日 時：2015 年 2 月 1 日（日）9 時 30 分～12 時 天気：晴れ（強風）

場 所：西白井の清水口調整池周辺（白井市）

参加者：10 名 指導員 16 名

担当指導員：新堀、木村、千葉

観察場所は北総線西白井駅から徒歩で、15 分ぐらいの位置にあり大変利便な所でした。歩道も整備されており車両等との接触の危険の場所もなく安心して観察出来ました。冬型の気候の真最中の為北西の風が強く吹いて、参加者の皆様も少し寒かったです。

観察開始して最初の対面は、愛嬌のある「ツグミ」の出会いでした。参加者の皆さんはそれぞれ双眼鏡の調整等で観察の為のウォーキングアップをしながら、10分ほど歩いて-主目的地の清水口調整池に到着しました。調整池の周辺は、一辺を除いて三方が、ユーカリの木が植栽され大木となって、茂っていました。新堀担当員より調整池の歴史及びユーカリの木の植栽についての説明があり、参加者の皆さんも納得されていました。樹木は成長中に襲ってくる細菌や微生物、害虫に対し化学物質を出して、防止、殺菌する力を持っており、その力を利用し調整池に発生する蚊や、その他のムシ類が地域住民に迷惑をかけるのを防止するのに、一番効果の高いユーカリの木が選定されて植えられたそうです。皆さんでユーカリの樹皮の落葉を観察してみましたが、我々人間に対しては心地よい香りであり、殺虫作用があるとは想像できませんでした。

池に到着すると最初の風の当たらない場所には、ゴイサギの幼鳥、カワセミ、キジバトが風をよけて、じっとしており、我々の観察に協力してくれている様子で、ゆっくりと楽しむ事が出来ました。池には、オオハクチョウ、コハクチョウ、オナガガモ、ホシハジロ、オオバン等がみんなで顔を風上に向けて漂っており、岸辺ではアオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギの親子が風の静まるのを待っている様子でした。オオハクチョウは、昨年の11月末に飛来ってきて、現在は、23羽ほど、滞在している。ときどき、手賀沼や松戸の21世紀の森の池にも、遊びに行っているようです。オオハクチョウが 5～6羽で池の周辺をホバーリングする姿は、素晴らしい、観察会の皆さんには、その優雅さに感動されカメラのシャッターを切られていきました。風が強い時、野鳥達はどんな行動をするのかも観察出来たと思います。帰り道ではケヤキの枝に「コゲラ」が我々を見ても飛び去る事もなく木を叩いてエサを取るしぐさをゆっくりと見せてくれました。

想像以上に風が強く、参加者の皆さんは寒さで大変だったようですがこれも自然観察会の一部なのですねという意見も参加者から聞かれました。最後は出席した指導員の反省会で、障害者の参加についての対応や、実施当日に於ける想定外の問題発生に対する対策等の意見交換があり今後にも有意義な観察会になったようです。こんな利便な住宅街に素晴らしい自然が残されていることに改めて驚き、今後この自然をどのように保持できるのか、課題も考えさせられました。

